

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：32510

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K20545

研究課題名（和文）東南アジア大陸部の上座部仏教僧伽における「民族宗派」の全体像把握に向けた研究

研究課題名（英文）Research on the overall picture of "ethnic orders" among the Theravada Sangha in the Mainland Southeast Asia

研究代表者

和田 理寛（Wada, Michihiro）

神田外語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：70814325

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：上座部仏教社会において「民族宗派」ともいえる出家者集団が形成されてきたことを、少数民族モン（Mon）の例から明らかにした。モン僧伽は、誦経の際、文字体系に基づいた独特の発声を伝統的に行っているが、19世紀以降はそれが宗派形成へと展開した。タイでは、タンマユット派内部にモン派があり、近年まで独自の出家式を行っていた。ミャンマーでは、3つのモン派それぞれが自派僧院リストを作成し、民族宗派というまとまりを定期的に視覚化してきた。博論でも言及したこれらの点について、本研究は追加調査を行い、2本の論考として発表した。また雑誌分析から、モン僧は在家民族団体以上に、自言語に強いこだわりをもつことを論じた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで宗教と民族意識やナショナリズムとの関係は広く議論されてきた。しかし、上座部仏教の内部でも民族（とくに少数民族）ごとに異なる出家者集団が形成されてきたことは、十分に明らかにされてこなかった。そうしたなか本研究は、モンやダウエーの事例から、上座部仏教の僧伽もまた、民族主義や地域主義と密接に関わり合い、独自の宗派を形成してきたことを明らかにできた点で学術的に意義があった。とくにモンの例については出家者が書き言葉の担い手として民族主義を先導している点も再確認できた。また、これまであまりなかった、上座部仏教社会に関する概説書を共著で上梓し、各国各地域の異同を紹介できたのは社会的意義があった。

研究成果の概要（英文）：This study found that ethnic orders (groups of monks) were formed in Theravada Buddhist societies, by researching the case of Mon. The ethnic Mon monks have chanted in their pronunciation based on their writing systems, and the tradition made some Mon orders since the 19th century. In Thailand, the Mon order in Dhammayuttika Nikaya had conducted ordination rituals almost exclusively in their network. In Myanmar, the three Mon orders have made their monastic lists annually, from which we can imagine the ethnic group as a body consisting of numbers. These research results, which were part of my dissertation and supplemented by new research, have been published as articles. Besides, my other article on periodicals revealed that the Mon monks tend to attach more importance to the written Mon language than the lay publishers or writers of the ethnic magazines.

研究分野：地域研究（タイ、ミャンマー）

キーワード：上座部仏教 少数民族 僧伽 宗派 モン（Mon） ダウエー タイ ミャンマー

1. 研究開始当初の背景

宗教が民族意識の形成やナショナリズムの昂揚を促す側面についてこれまで広く議論されてきた。ただし、上座部仏教については、それが他宗教との境界を強化する面への注目に偏っており、上座部仏教徒内部の多民族的状況にどのような影響を及ぼしているか、十分議論されてこなかった。そこで本研究は、上座部仏教と民族の関係を考えるため、僧伽（出家者集団）に注目し、その内部に「民族宗派」的な社会集団が形成されているか、その実態把握を試みた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、仏教と民族の関係を明らかにすること、具体的には、東南アジア大陸部で広く信仰されている上座部仏教の出家者について、少なくとも5～6の言語・文字を基礎とした「民族宗派」と呼ぶ中間レベルの社会空間が広がっていることを指摘し、その根拠と全体像を明らかにすることである。上座部のパーリ語仏典は、言語集団によって異なる発音で誦出される。この誦経実践は、実践仏教に注目する村落研究などにおいては、口伝による「声の文化」として理解されてきた。一方、本研究は、これが読み書きとも関連した、声、文語圏、文字圏の総体であり、対面的関係を越えた社会空間を創出する点に注目する。つまり、誦出発音の相違は、宗教実践（羯磨）を共に行わない、ないし共に行わない傾向をもつ点で、上座部仏教の「宗派」（ニカーヤ）的な社会関係を形成している可能性がある。本研究は、この「民族宗派」について、東南アジア大陸部にどのような集団が成立しているか、その実態解明を試みる。

3. 研究の方法

研究は現地調査を基礎に3つの方法を用いる予定であった。まず、東南アジア大陸部の上座部仏教社会における各種の文字について、俗語を読む際の発音と、誦経時の発声方法を整理することで、どのような「民族宗派」が存在するのか明らかにする。とくにこれまで調査してきたタイ、ビルマ、モンの3民族に加え、ラーナー語（北タイ語）、ラオ語（ラオス語）クメール語（カンボジア語）などについて整理を行う。

第二に、これら「民族宗派」の社会的側面について、なかでもそれらが宗派（ニカーヤ）としての特徴をどの程度有しているのかについて調べる。具体的には、誦経発声の差異と宗派（ニカーヤ）との関わりについて考察するために、「民族宗派」の出家者が、他派の僧と共住し、羯磨と一緒に唱える傾向があるか、また出家式を他派と共に行うことができるか、現地でのインタビューを基に明らかにする。

第三に「民族宗派」としての特徴をもたない、その他の言語集団の僧伽と比較する。例えば、シャンやダウエーといった民族ないし地域の出家者集団について調査を行う。

4. 研究成果

まず、コロナ禍およびその他やむを得ない事情により、当初予定していたフィールド調査を十分に実施することができず、「民族宗派」についてその全体像を把握するという当初の目的を完遂できなかったのが残念である。こうした制約のなかで、過去の調査データや文献資料の活用、部分的な現地調査などをとおして、以下のとおり、上座部仏教と民族について研究成果の一部を形にすることができた。

まず、タイとミャンマーに住む少数民族モン（Mon）について2つ論考を英語で発表した。モン僧伽は、タイやビルマの多数派僧と誦経発声の異なる点で、「民族宗派」の典型例といえる。1つはタイ国のモン系宗派についての論考である。周知のとおり、タイの上座部仏教僧伽にはタンマユット派という改革的な宗派がある。しかし同派の内部に、ラーマン・タンマユット派とよばれる独自の集団があることは、現地社会や研究者のあいだでもほとんど知られてこなかった。ラーマン・タンマユット派は、タンマユット派でありながら、近年までタンマユット派の僧たちとはともに羯磨を行わない傾向があるという点で、上座部仏教僧伽の宗派（ニカーヤ）的な性格をもっていた。そして、独自のネットワークを維持し、出家式などもそのネットワーク内で行ってきた。この実態と近年の同派廃止（タンマユット派への統合）について、パーリ学仏教文化学会で発表し、その後、論文“The Third Nikaya-like Order in Thailand”を執筆した。本科研初年度のタイ国調査の成果は、この論文に活かすことができた。もう1つは、論文“Buddhist Monastic Lists and the Making of a Mon Nation in Myanmar”の発表であり、これは、ミャンマーにある3つのモン宗派（いずれも非公認）が、それぞれ定期的に自派の僧院リストを作成しており、それが民族宗派を視覚的に想像させる機能を果たしている面について論じた。

同じく少数民族モンについて、これまでどのような民族雑誌を刊行してきたか整理・分析し、『東南アジア逐次刊行物の現在』第2篇（近刊予定）の一章として執筆した。本研究との関連では、ミャンマーにおいて、モンの学生や在家文化団体が発行する民族雑誌はモン語とビルマ語の二言語雑誌であることが多いのに対し、モン僧が発行する雑誌はモン語による一言語雑誌である傾向を明らかにした。自言語へのこだわりという点で、仏教僧と民族運動の密接な関係をうかがわせる結果であった。

ミャンマー南部のダウエー地域にある独自の出家者集団について、20世紀移行期に焦点を

当て、角田彩佑里との共著「ダウエー僧伽に関する覚え書」を発表した。そこではダウエーを拠点とする少数宗派ガドー派がその宗派形成においてビルマ在来僧伽の中心部(サンガ主)から庇護を受けたこと、またタイ国バンコクにおいてビルマ僧とダウエー僧のあいだに確執があったことに注目し、地域的な宗派が複数存在する可能性を論じた。

共著として、各国各地域の上座部仏教社会の特徴をとりあげ比較した概説書『東南アジア上座部仏教社会への招待』を上梓した。同書には、たとえば、仏教に関するパーリ語の基礎語彙について、各言語・文字による同異を表にまとめるなど、本研究の成果の一部を収録した。

研究として発表したのは以上である。このほか研究期間中には成果として形にならなかったが、北タイにおける伝統文字と誦経発声について、またパーリ語のシャン文字表記の統一について、現地調査を通じて資料を収集することができた。これらについては今後も研究を続けたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 角田彩佑里・和田理寛	4. 巻 20-2
2. 論文標題 ミャンマーの「ダウエー人」をめぐる民族分類と民族主義：公定民族分類は民族境界の固定化につながるのか？	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ地域研究	6. 最初と最後の頁 195-229
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14956/asafas.20.195	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 角田彩佑里・和田理寛	4. 巻 20-2
2. 論文標題 ダウエー僧伽に関する覚え書	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ地域研究	6. 最初と最後の頁 230-251
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14956/asafas.20.230	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Michihiro Wada	4. 巻 33
2. 論文標題 The Third Nikaya-like Order in Thailand: Ramanna Dhammayuttika, an Unknown Ethnic Mon Order throughout the 20th Century	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 パーリ学仏教文化学	6. 最初と最後の頁 79-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20769/jpbs.33.0_79	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Michihiro Wada	4. 巻 8
2. 論文標題 Buddhist Monastic Lists and the Making of a Mon Nation in Myanmar: Beyond Criticism of Fixed Ethnicity	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 AGLOS	6. 最初と最後の頁 53-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 和田理寛	4. 巻 第2編
2. 論文標題 少数民族モンの逐次刊行物（ミャンマーとタイ）：異榻同夢の文語共同体	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東南アジア逐次刊行物の現在	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 和田理寛
2. 発表標題 中部タイにおけるモン（Mon）系タンマユット僧団の変遷と宗派的特徴：19世紀末から現在まで
3. 学会等名 パーリ学仏教文化学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 和田理寛
2. 発表標題 書評 矢野秀武（2017）『国家と上座仏教：タイの政教関係』
3. 学会等名 日本タイ学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 和田理寛、小島敬裕、大坪加奈子、増原善之、下條尚志、杉本良男	4. 発行年 2021年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 204
3. 書名 東南アジア上座部仏教への招待	

〔産業財産権〕

〔その他〕

タイ料理が無料で食べ放題のナゾ? カティナ衣奉献祭@ワットバクナム日本別院
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/blog/culture/th003/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------